



Test Services

[ユーザーガイド](#)

注意

文書情報

文書番号 D0034255ja リビジョン A.00

2024年1月

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2022-2024

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies, Inc.
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051

ソフトウェアリビジョン

このガイドは改訂版が発行されるまで Test Services のバージョン 3.6 以降に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に關しても、明示默示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について: 連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211 (Technical Data) および 12.212 (Computer Software)、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015 (Technical Data -Commercial Items) および DFARS 227.7202-3 (Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation) の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、注意を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、警告を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

本書では、Test Services プログラムの使用方法について説明しています。

Test Services は、OpenLab CDS をインストールすると自動的にインストールされます。ライセンスなしで利用できる一連の検証テストも含まれます。Test Services for OpenLab CDS ライセンスによって、追加の CDS 検証テストが有効になります。

1 はじめに

本章では、Test Services の概要について解説します。

2 Test Services の使用方法

本章では、ログイン、テスト実行、およびレポート表示の方法について解説します。テストスケジュール、資格情報および電子メール通知設定の方法についても説明します。

目次

1 はじめに 5

概要 6

2 Test Services の使用方法 8

Test Services の使用方法 9

Test Services テストのライセンス 9

Test Services へのログイン 10

Test Services のナビゲーション 12

Test Services テストの実行 13

OpenLab ソフトウェアインストールの確認 15

システムレポート 16

OpenLab セキュリティ検査 (ライセンスが必要) 16

OpenLab ストレージシステム検査 (ライセンスが必要) 18

OpenLab CDS ワークフロー検査 (ライセンスが必要) 19

OpenLab CDS 通信検査 20

Test Services レポートのレビュー 22

検査レポートのコンテンツ 25

テストの中断 28

Test Services テストのスケジュール 29

テストスケジュールの作成 29

テストスケジュールの有効または無効 33

テストスケジュールの変更 33

テストスケジュールの削除 34

設定 35

テスト実行のための資格情報の設定 35

電子メール通知の設定 36

1 はじめに

概要 6

本章では、Test Services の概要について解説します。

概要

Test Services は、ソフトウェアの検証およびシステムの機能を確認するためのシンプルなツールで、処理はすべて完全に自動化されています。Test Services は、コアとなる Test Services フレームワークと、その他の検証テストを追加するオプションのプラグインで構成されます。テストを選択して Test Services を実行すると、一連のテストが行われて、システムが設計どおりに動作しているかどうかを検証します。Test Services に含まれるテストを **表1** に示します。一部のテストはデフォルトでインストールされ、ライセンスなしで有効になっています。テストには、インストールされていても、実行するにはライセンスが必要なものもあります。

注記

Test Services を実行すると、そのシステムタイプ（AIC、クライアント、サーバー）で利用可能なテストにのみアクセスできます。インストールされていないプラグインに含まれるテストは表示されません。

表1 Test Services で利用できるテスト

テスト	実行されるタスク	ワークステーション	Workstation Plus	サーバー / ECM XT	クライアント	AIC
システムレポート	<ul style="list-style-type: none"> インストールされているアプリケーションおよびパッチの一覧をレポートします。 前回実行したシステムレポートからの変更を表示します。 	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能
OpenLab セキュリティ検査	<ul style="list-style-type: none"> パスワードポリシーを検証します。 ロールのアクセス検査を実施します。 アクティビティログを検証します。 	利用可能（内部 / ドメイン認証）または無効（認証なし）	利用可能（ライセンスが必要・付属）	利用可能（ライセンスが必要）	推奨されません	推奨されません

表1 Test Services で利用できるテスト (続き)

テスト	実行されるタスク	ワークステーション	Workstation Plus	サーバー / ECM XT	クライアント	AIC
OpenLab ストレージシステム検査	<ul style="list-style-type: none"> ストレージシステムの機能 (ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理) を検証します。 	利用可能 (ライセンスが必要)	利用可能 (ライセンスが必要・付属)	OpenLab ECM および ECM Server/XT で利用可能 (ライセンスが必要)	推奨されません	推奨されません
OpenLab ソフトウェアインストールの確認	<ul style="list-style-type: none"> Software Verification Tool (SVT) を実行して、インストールされている Agilent ソフトウェアのバイナリファイルの整合性を検証します。 	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能	利用可能
ワークフロー テスト (OpenLab CDS プラグインが必要)	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトおよび仮想 (Data Player) 機器を作成、シーケンスを追加、ソフトウェアアルゴリズムを検証します。 	利用可能 (ライセンスが必要)	利用可能 (ライセンスが必要・付属)	利用不可	利用不可	利用可能 (ライセンスが必要)
通信検査 (OpenLab CDS プラグインが必要)	<ul style="list-style-type: none"> システムのすべての AIC へのネットワーク接続 AIC でコンフィギュレーションされている機器への接続 	利用可能	利用可能	無効	利用可能	利用可能

選択したテストを自動的に実行するためのテストスケジュールを作成することも可能です。必要に応じて、どこでテストを実行するかも選択できます (クライアント、AIC など)。

選択したユーザーへ電子メールを送信するよう通知を設定して、テストの実行と結果を通知することもできます。

Test Services の使用方法

Test Services の使用方法 9

- Test Services テストのライセンス 9
- Test Services へのログイン 10
- Test Services のナビゲーション 12

Test Services テストの実行 13

- OpenLab ソフトウェアインストールの確認 15
- システムレポート 16
- OpenLab セキュリティ検査 (ライセンスが必要) 16
- OpenLab ストレージシステム検査 (ライセンスが必要) 18
- OpenLab CDS ワークフロー検査 (ライセンスが必要) 19
- OpenLab CDS 通信検査 20

Test Services レポートのレビュー 22

- 検査レポートのコンテンツ 25

テストの中断 28

Test Services テストのスケジュール 29

- テストスケジュールの作成 29
- テストスケジュールの有効または無効 33
- テストスケジュールの変更 33
- テストスケジュールの削除 34

設定 35

- テスト実行のための資格情報の設定 35
- 電子メール通知の設定 36

本章では、ログイン、テスト実行、およびレポート表示の方法について解説します。テストスケジュール、資格情報および電子メール通知設定の方法についても説明します。

Test Services の使用方法

Test Services は、Test Services がインストールされている OpenLab CDS AIC、クライアント、サーバー、ワークステーション、または Workstation Plus の URL を、インターネットブラウザーで開いて開始します。

サーバー、AIC、Workstation Plus、ワークステーションの場合には、下記を使用してください。

<https://hostname.domain.com/testservices>

または

<https://localhost/testservices>

クライアントシステムでは下記を使用してください。

<https://localhost:52088/testservices> (Test Services へのローカルアクセス)

Test Services にリモートでアクセスするには、下記を使用してください。

<https://<<client-fqdn>>:52088/testservices>

クライアントシステムにファイアウォールが設定されている場合、ポート 52088 がオーブンになっていることを確認してください。

Test Services テストのライセンス

OpenLab CDS Workstation Plus システムには適用可能なすべてのライセンスが含まれています。その他の CDS 製品の場合、ライセンスを要するテストを実行するには、ライセンスを購入してインストールする必要があります。詳細については、『Test Services 管理ガイド』を参照してください。

Test Services へのログイン

ブラウザーで Test Services URL を開くと、Test Services のログインページが表示されます。

注記

認証を「なし」に設定したファイルベースのワークステーションを使用している場合、ログインは不要です。

OpenLab CDS へのログインに使用している有効なユーザー名とパスワード（および必要に応じてドメイン）を入力し、[ログイン] をクリックします。

注記

インストール後に初めてログインする場合、フレームワークの OpenLab Server への登録を完了するために、OpenLab Shared Services 管理者ロールが付与されているユーザーでログインする必要があります。

初めてのログインを行った後は、[Test Services ユーザー] ロールを付与されたユーザーは、ログインし、ソフトウェアインストールの確認やシステムレポートを実行し、実行履歴から前の結果を表示することができます。

OpenLab セキュリティ検査と OpenLab ストレージシステム検査を実行するには、「セキュリティの管理」権限を含むシステム管理のロールが必要です。

権限を割り当てるためのユーザー アカウントの編集方法については、OpenLab CDS のオンラインヘルプおよび『Test Services 管理ガイド』を参照してください。

ログインすると、Test Services のホームページが表示されます。追加のライセンスが不要なテストが上部に表示されます。ライセンスを必要とするテストが、ライセンスが必要なテストに表示されます。

デフォルトでは、推奨されるテストのみ表示されます。Test Services を実行するコンピューターで推奨されるかどうかにかかわらず、利用可能なテストをすべて表示するには、[すべてのテストを表示] をクリックします。6 ページの「Test Services で利用できるテスト」を参照してください。

Test Services の使用方法

Test Services へのログイン

Test Services

コンピューター: QUALADEV

システムのステータス: レディ

利用可能なテスト

前回の結果: 合格 (2022-04-20 15:13:33 +09:00)

□ テスト	前回の実行日	前回の結果
□ OpenLab CDS 通信検査 OpenLab CDS 2.7 システム構成に含まれる機器の接続を検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab ソフトウェアインストールの確認 Agilent Software Verification Tool B.01.01.013 オリジナルのファイルが正しくインストールされていることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ システムレポート コンピューターにインストールされているすべてのソフトウェアアプリケーションのレポートを作成します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格

ライセンスが必要なテスト

□ OpenLab セキュリティ検査 (ライセンス取得済) OpenLab Shared Services 3.6.0 許可されたユーザーのみがシステムにアクセスできることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab ストレージシステム検査 (ライセンス取得済) ストレージのタイプ: Content Management ストレージシステムの機能 (ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理) を検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab CDS ワークフロー検査 (ライセンス取得済) OpenLab CDS 2.7 CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムを検証します (測定 → データ解析 → レポート)	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格

開始 停止

図 1. Test Services ホームページの例

注記

ライセンスが必要な場合、テストを実行する前にライセンスがインストールされている必要があります。ライセンスはテストの初回実行時に取得され、(ライセンス取得済) と表示されます。

セキュリティ検査や OpenLab ストレージシステム検査の実行が完了した後も、ライセンスは取得済みのままになります。(OpenLab セキュリティ検査や OpenLab ストレージシステム検査が完了してもライセンスプールにリリースされません。)

テストの実行に必要なライセンスが不足している場合は、テストのステップ (ライセンス 'QlaSecurity' をチェック) でテストが不合格になります。

Test Services のナビゲーション

ホームページの左側にあるナビゲーションペインで、以下のタスクを選択してタスクを切り替えることができます。



ホーム

選択可能なテストのリストを表示します。実行するテストを選択したら、このウィンドウからテストを開始します。前回の実行結果を表示したり、前回の結果レポートにアクセスしたりすることができます。



実行結果の詳細

現在実行中のテストについて、実行中の詳細なステップとステータスを表示します。



実行履歴

実行済みのテストのリストを表示します。日付の範囲を選択するか、フィルターを適用してレポートを開くことができます。



テストスケジュール

現在のテストスケジュールのリストを表示します。テストスケジュールの作成、編集、それらの有効/無効の設定、または削除ができます。



設定

Test Services に構成可能な設定を表示します。

資格情報の設定 - アドホックテストやテストスケジュールの実行に関する資格情報を設定できます。

通知の設定 - テスト実行の通知の有効/無効にする、および通知設定を定義できます。デフォルトでは、通知は無効になっています。



ヘルプとドキュメント

Test Services ユーザーガイドおよび管理ガイドへのリンクがあります。



ユーザーのログアウト。操作が行われないと、OpenLab Shared Services のセキュリティポリシーで定義されたタイムアウトが経過した時点で、ユーザーは自動的にログアウトされます。注記：認証を「なし」に設定したファイルベースのワークステーションでは、このボタンは表示されません。

Test Services テストの実行

注記

Test Services は、テストの要件を満たしているテストのみを有効にします。たとえば、OpenLab CDS とともにインストールされる Software Verification Tool がシステムにインストールされていない場合は、ソフトウェアインストールの確認は無効になります。

プラグインがインストールされている場合は、それらのテストが [利用可能なテスト] に表示されます。

テストの開始：

- 1 ホームページで、実行するテストのチェックボックスをオンにします (図2)。すべてのテストを選択するには、[テスト] の横にあるチェックボックスをクリックします。

注記

システムのステータスが [レディ] の場合は、テストを選択して開始することができます。[実行中] または [中断中] の場合は、進行中のテストが終了するまで待つ必要があります。

- 2 [開始] をクリックします。

Test Services の使用方法

Test Services テストの実行



Test Services

コンピューター: QUALADEV

システムのステータス: レディ

利用可能なテスト

前回の結果: 合格 (2022-04-20 15:13:33 +09:00)

□ テスト	前回の実行日	前回の結果
□ OpenLab CDS 通信検査 OpenLab CDS 2.7 システム構成に含まれる機器の接続を検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab ソフトウェアインストールの確認 Agilent Software Verification Tool B.01.01.013 オリジナルのファイルが正しくインストールされていることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ システムレポート コンピューターにインストールされているすべてのソフトウェアアプリケーションのレポートを作成します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格 ①
ライセンスが必要なテスト		
☑ OpenLab セキュリティ検査 (ライセンス取得済) OpenLab Shared Services 3.6.0 許可されたユーザーのみがシステムにアクセスできることを検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab ストレージシステム検査 (ライセンス取得済) ストレージのタイプ: Content Management ストレージシステムの機能 (ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理) を検証します	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格
□ OpenLab CDS ワークフロー検査 (ライセンス取得済) OpenLab CDS 2.7 CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムを検証します (測定 -> データ解釈 -> レポート)	2022-04-20 15:13:33 +09:00	合格

開始

停止

図 2. ホームページからテストを開始

テストが開始されると、ホームページの上部にあるシステムのステータスが「実行中」に変わり、キューに追加されたテストの数などの追加情報も表示されます。

注記

テストに合格したものの、見直すべき追加情報がある場合、「合格 (特記事項あり)」アイコン **合格 ①** がレポートに表示されます。

3 選択したテストのステータスを表示するには、[実行結果の詳細] ページを選択します。



The screenshot shows the Test Services application interface. On the left is a vertical navigation bar with icons for Home, System Status, Test Results, System Reports, Security Checks, and Help. The main area is titled "Test Services" and shows the following details:

コンピューター: QUALADEV

システムのステータス: 実行中

実行結果の詳細

開始時間: 2020-11-05 14:48:18 +09:00 実行時間: 00:00:02

テスト	開始時間	ステップ (2/2)	ステータス
OpenLab CDS 通信検査	2020-11-05 14:48:19 +09:00	テストを実行するためにユーザーの権限を確認	完了
システムレポート	2020-11-05 14:48:19 +09:00	レポート作成	完了
OpenLab セキュリティ検査			

停止

図 3. [実行結果の詳細] にテストの進行状況が表示

- 4 テスト名をクリックすると、そのテストの進行状況およびステータス（保留中 / 実行中 / 完了 / 中断中）が表示されます。
 - 5 テストを中断するには、[停止] をクリックします。
- 各テストの説明を以下のセクションに記載しています。

OpenLab ソフトウェアインストールの確認

Software Verification Tool (SVT) を実行して、インストールされている Agilent ソフトウェアのバイナリファイルの整合性を検証します。このテストはすべてのシステムで利用できます。

システムレポート

コンピューターにインストールされたすべてのソフトウェアアプリケーションを総括したシステムレポートが作成されます。

- ・ システムの詳細 - ハードウェアとオペレーティングシステムの設定（インストールされているウィルス対策、時刻同期の情報、日時やタイムゾーンを変更できるユーザー情報を含む）
- ・ ソフトウェアアプリケーション - インストールされているソフトウェアアプリケーション（バージョン、発行者、インストール日を含む）
- ・ 更新 - インストールされている更新の内容（種類、インストール日を含む）
- ・ 前回のシステムレポート作成時からの変更は、ハイライト表示されます。

前回のシステムレポート作成から変更が生じた場合、「合格（特記事項あり）」アイコンが表示されます。 ①

重大な変更や予期しない変更が生じると、警告メッセージがレポートに記載されます（例：ウィルス対策が未更新 / 未インストール、Windows の「ユーザー」グループが日時やタイムゾーンを変更した可能性がある、時刻同期後 24 時間が経過した）。

このテストはすべてのシステムで利用できます。

注記

ウィルス対策情報は、Windows サーバーシステムでは入手できません。

OpenLab セキュリティ検査（ライセンスが必要）

OpenLab セキュリティ検査は、許可されたユーザーのみがシステムにアクセス可能であることを検証します。

注記

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合は、セキュリティ検査を利用する前に設定を行う必要があります。詳細については、「[OpenLab セキュリティ検査の設定](#)」（17 ページ）を参照してください。

このテストでは、管理者と一般ユーザーの 2 つのユーザーが作成されシステムにインポートされます。

Test Services の使用方法

OpenLab セキュリティ検査（ライセンスが必要）

次に、作成 / インポートされたユーザーを使用して、OpenLab Shared Services (OLSS) でセキュリティ検査が実行されます。

OpenLab セキュリティ検査の設定

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合は、OpenLab セキュリティ検査を実行する前に設定を行う必要があります。この場合は、ホームページの [OpenLab セキュリティ検査] の下に [設定] ボタンが表示されます。このボタンをクリックするとテストの設定フォームが開きます。フォームに、テスト実行に使用するテストユーザー（管理者および一般ユーザー）のユーザー資格情報を入力します。

検査の最後に、システムからこのテストユーザーを削除するよう選択することもできます。入力したデータは、後から使用できるように保存することもできます。

設定は一度実行されると、その設定がクライアント / サーバー環境のすべてのマシンにグローバルに適用されます。

注記

現在ログインしているユーザーをテストユーザーとして設定し、検査の最後にテストユーザーを削除するよう選択した場合、テストは不合格になります。システムは、現在ログインしているテストユーザーの削除を許可しません。（たとえば、自分自身をシステムから削除するとエラーが発生します。）

注記

クライアント / サーバー環境の場合、Test Services 管理者がいずれかのマシンでこの情報を設定すると、3分以内にすべてのマシンにその情報が表示されます。

OpenLab ストレージシステム検査（ライセンスが必要）

この検査は、ファイルおよびフォルダーの保存、保護、および管理を検証します。使用しているストレージシステムのタイプによって、検証内容が若干異なります。

注記

ドメイン認証プロバイダーを使用している場合、OpenLab ストレージシステム検査を利用する前に設定を行う必要があります。詳細については、「[OpenLab ストレージシステム検査の設定](#)」（18 ページ）を参照してください。

OpenLab ストレージシステム検査の設定

Secure Storage でドメイン認証プロバイダーを使用している場合、OpenLab ストレージシステム検査を実行する前に設定を行う必要があります。この場合は、ホームページの [OpenLab ストレージシステム検査] の下に [設定] ボタンが表示されます。

設定は一度実行されると、その設定がクライアント / サーバー環境のすべてのマシンにグローバルに適用されます。

ドメイン認証を用いた Secure Storage の場合

- 1 [設定] ボタンをクリックしてテストの設定フォームを開きます。
- 2 テスト実行に使用するテストユーザー（Test Services 管理者および一般ユーザー）のユーザー資格情報を入力します。
- 3 検査の最後にシステムからこのテストユーザーを削除するよう選択します。（オプション）
- 4 [OK] をクリックします。

注記

クライアント / サーバー環境の場合、Test Services 管理者がいずれかのマシンでこの情報を設定すると、3 分以内にすべてのマシンにその情報が表示されます。

OpenLab ECM をストレージプロバイダーとして使用している場合

- 1 [設定] ボタンをクリックしてテストの設定フォームを開きます。
- 2 デフォルトでは、[ファイルをアップロードし検索することによりクリック検索機能を検証] が選択されています。ファイルがストレージで処理およびインデックス処理が完了すると検索が可能になります。検査はこれらが完了するまで待機する必要があります。ファイルの処理およびインデックス処理がタイムアウトされるまでの待機時間を変更できます。（デフォルトは 300 秒で、最大値は 9999 秒です）
- 3 [OK] をクリックします。

OpenLab CDS ワークフロー検査（ライセンスが必要）

ワークフローテスト中に、Test Services はプロジェクトおよびバーチャル機器（Data Player）を作成し、シーケンスを実行して、ソフトウェアの計算アルゴリズムを検証します。

Test Services は、使用している OpenLab CDS のバージョンに対応したリファレンスファイルセットを使用します。必要なすべてのファイル（レポートテンプレート、シーケンス、測定メソッド、および解析メソッド等）は、Test Services のインストールと一緒にコピーされます。

ワークフローテストの終了時に、Test Services アルゴリズム評価および OpenLab CDS ワークフロー検査レポートが作成されます。Test Services 解析アルゴリズム評価レポートのサマリーもサマリーレポートに含まれます。

OpenLab CDS ワークフロー検査に必要なライセンス

ワークフロー検査を実行するには QlaCDSWorkflow ライセンスが必要です。ワークフロー検査を実行するマシンごとに QlaCDSWorkflow ライセンスが 1 つ必要です。ライセンスは、ワークフロー検査の初回実行時に取得され、ワークフロー検査の完了後も取得されたままになります。（ワークフロー検査が完了してもライセンスプールにリリースされません。）

テストの実行に必要なライセンスが不足している場合は、テストのステップ（ライセンス 'QlaCDSWorkflow' をチェック）でテストが不合格になります。

Test Services ライセンスは、OpenLab Control Panel の [管理] タブにある [ライセンス] オプションからインストールします。ライセンスの数が不足している場合は、Agilent サポートにお問い合わせの上、追加のライセンスを取得してください。OpenLab ライセンスのインストール方法の詳細については、OpenLab コントロールパネルのオンラインヘルプを参照してください。

必要なロールと権限

このテストを実行するために必要なロールと権限については、『Test Services 管理ガイド』の「必要なロールと権限」を参照してください。

OpenLab CDS 通信検査

クライアントの場合、この検査ではシステムが AIC へ接続できることを確認します。AIC、ワークステーション、または Workstation Plus の場合、この検査では AIC でコンフィグレーションされている機器へ接続できることを確認します。

必要なロールと権限

このテストを実行するために必要なロールと権限については、『Test Services 管理ガイド』の「必要なロールと権限」を参照してください。

実行される通信検査のタスク

OpenLab CDS 通信検査では以下を実行します。

- コンポーネント間のネットワーク接続を確認します：クライアント > AIC
- クライアントの場合、この検査ではシステムが AIC へ接続できることを確認します。AIC、ワークステーション、または Workstation Plus の場合、この検査ではマシンでコンフィグレーションされている機器へ接続できることを確認します。
- サーバーでは実行できません。

注記

接続されていない機器がある場合は、「1つまたは複数の機器がこの AIC 接続されていません。機器名: ...」というメッセージが、接続されていない機器のリストと一緒に表示されます。

このメッセージが表示されている場合は、テストを実行する前に、切断された機器を接続してください。接続されていない機器があると、テストは不合格になります。

Test Services レポートのレビュー

テストが完了すると、ホームページまたは実行履歴ページから、テスト結果を入手できます。実行履歴ページには以前の結果も表示されます。

ホームページからレポートにアクセスする場合

前回のテストのレポートを表示するには、[利用可能なテスト] の下に表示される [前回の結果:] の右にあるリンクをクリックします。

例：

前回の結果:合格 (2018-10-05 11:39:58+02:00)

このリンクを選択すると、サマリーレポートを含め、前回の実行で作成されたすべてのレポートのリストが開きます。

たとえば、1回のテストでセキュリティ検査とシステムレポートを実行した場合、このリンクから、セキュリティ検査レポート、システムレポートおよびサマリーレポートが表示されます。

特定のテストのレポートを表示するには、そのテストの [前回の結果] のリンクをクリックします。

このリンクを選択すると、そのテストによって作成されたすべてのレポートのリストが開きます（セキュリティ検査のリンクをクリックすると、セキュリティ検査レポートのみが表示され、サマリーレポートは表示されません）。

実行履歴ページからレポートにアクセスする場合

[実行履歴] ページでは、テスト結果がテーブル形式で表示されます。テストの実行日時、テストを実行したユーザー、テスト結果（合格、不合格、中断）と、Secure Storage または OpenLab ECM 内でのレポートの保存先が表示されます。

注記

ファイルベースのワークステーションの場合、テストを実行したユーザーは表示されません。

Test Services

コンピューター: **QUALADEV**

実行履歴

日付の範囲 ユーザー 結果 フィルター

実行日時	ユーザー	結果	レポート
2020-11-05 13:04:52 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 13-04-52+09-00-P
2020-11-05 11:57:31 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 11-57-31+09-00-P
2020-11-05 11:10:18 +09:00	admin	合格	LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 11-10-18+09-00-P

図 4. 実行履歴

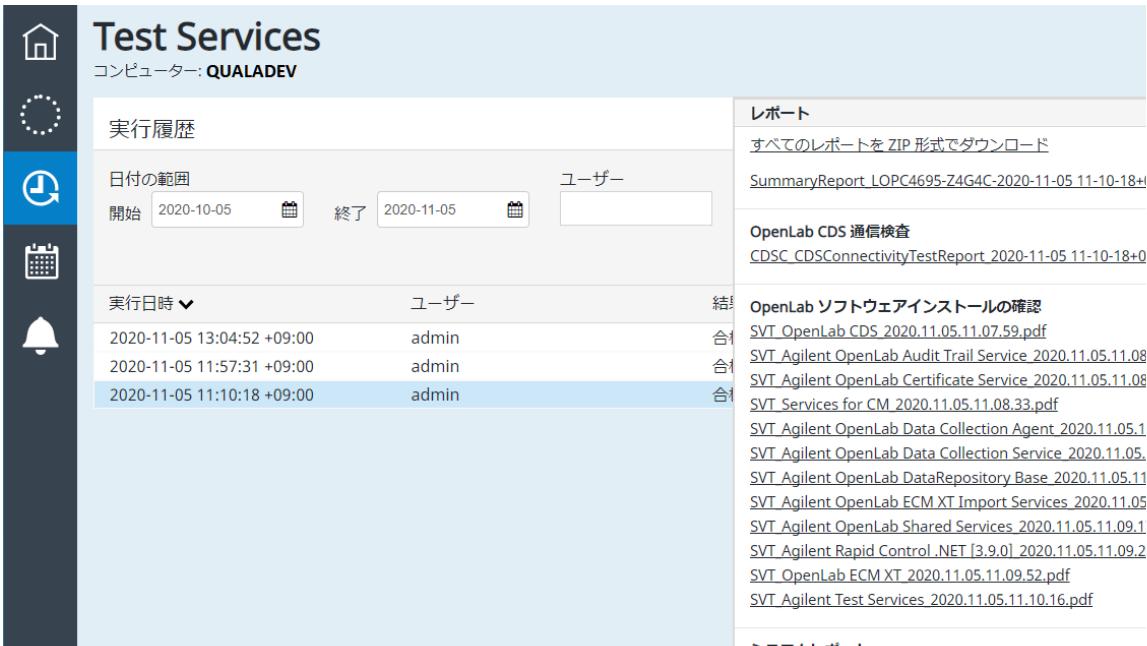
結果のフィルター

表示されているフィールドを使用して、表示するテストをフィルターできます。

- 1 [日付の範囲] の下で、[開始] と [終了] の日付を選択すると、指定した日付の範囲で実行されたテストのみを表示できます。デフォルトでは、先月までのすべてのユーザーによるすべてのステータスのテストが表示されます。
- 2 [ユーザー] の下に、テストを実行したユーザー名を入力します。（ファイルベースのワークステーションの場合は利用できません）
- 3 [結果] の下の下矢印をクリックし、結果を選択してフィルターを適用します。選択肢には、合格、不合格、すべて、中断があります。
- 4 選択したフィルターを適用するには、[フィルター] をクリックします。
- 5 現在のフィルター条件をクリアしてデフォルトに設定するには、[クリア] をクリックします。

テストのレポートを表示

- 1 実行されたテストのリストからテストをクリックすると、利用可能なレポートが表示されます（図 5）。



The screenshot shows the Test Services application interface. On the left is a vertical sidebar with icons for Home, Computer, Clock, Calendar, and Bell. The main area has a title 'Test Services' and a sub-header 'コンピューター: QUALADEV'. On the left, there's a 'Report' section with a table showing test results. The table has columns for '実行日時' (Execution Date), 'ユーザー' (User), and '結果' (Result). The results are: '2020-11-05 13:04:52 +09:00 admin 合格', '2020-11-05 11:57:31 +09:00 admin 合格', and '2020-11-05 11:10:18 +09:00 admin 中断'. On the right, there's a 'Report' section with a list of available reports. The list includes: 'すべてのレポートを ZIP 形式でダウンロード' (All reports in ZIP format), 'SummaryReport LOPC4695-Z4G4C-2020-11-05 11-10-18+', 'OpenLab CDS 通信検査' (OpenLab CDS Communication Check), 'CDS_CDSConnectivityTestReport_2020-11-05 11-10-18+0', 'OpenLab ソフトウェインストールの確認' (OpenLab Software Installation Confirmation), 'SVT_OpenLab CDS_2020.11.05.11.07.59.pdf', 'SVT_Agilent OpenLab Audit Trail Service_2020.11.05.11.08', 'SVT_Agilent OpenLab Certificate Service_2020.11.05.11.08', 'SVT_Services for CM_2020.11.05.11.08.33.pdf', 'SVT_Agilent OpenLab Data Collection Agent_2020.11.05.1', 'SVT_Agilent OpenLab Data Collection Service_2020.11.05.1', 'SVT_Agilent OpenLab DataRepository Base_2020.11.05.11', 'SVT_Agilent OpenLab ECM XT Import Services_2020.11.05.1', 'SVT_Agilent OpenLab Shared Services_2020.11.05.11.09.1', 'SVT_Agilent Rapid Control .NET [3.9.0]_2020.11.05.11.09.2', 'SVT_OpenLab ECM XT_2020.11.05.11.09.52.pdf', and 'SVT_Agilent Test Services_2020.11.05.11.10.16.pdf'.

図 5. 選択したテストのレポート

利用できるレポートが、テストの結果（合格 / 不合格 / 中断）と一緒に表示されます。

- a** 上部の「すべてのレポートを ZIP 形式でダウンロード」のリンクは、スマリーレポートを含め、選択したテストの実行によって作成されたすべてのレポートを ZIP ファイルにします。このリンクをクリックすると ZIP ファイルがローカルマシンにダウンロードされます。ローカルマシンで ZIP を展開してレポートを表示することができます。
- b** レポートを表示するには、レポート名をクリックします。レポートがローカルマシンにダウンロードされ、ローカルマシンでレポートを開いて表示できます。

検査レポートのコンテンツ

Test Services フレームワークで利用できるテストレポートは以下の通りです。

すべてのレポートに共通の項目

- ホスト名、ユーザー、日付、検査の総合判定（合格 / 不合格 / 利用不可）

システムレポート

このレポートは、PC に現在インストールされているすべてのアプリケーションのバージョン情報を記録しています。前回このレポートを作成した時からの変更内容はハイライト表示されます。レポートには以下のセクションが含まれます。

- システムの詳細
- ソフトウェアアプリケーション
- 更新
- 検出された変更のサマリー

OpenLab セキュリティ検査レポート

このレポートには、OpenLab セキュリティ検査の結果が含まれます。

- 製品およびバージョン（ある場合）
- 認証設定の詳細 - 内部、ドメイン、または ECM
- 検査用のユーザー / ロール
- 検査の結果

ソフトウェインストールの確認レポート

OpenLab のソフトウェアコンポーネントごとに、以下を含む個別の SVT レポートが作成されます。

- ソフトウェアアプリケーションの詳細
- 以下の結果サマリー

Test Services の使用方法

検査レポートのコンテンツ

- ファイルレポートサマリー
- GAC ファイルレポートサマリー
- ファイルレジストレーションレポートサマリー
- レジストリレポートサマリー
- インストールされたすべてのファイル
 - ファイルパス
 - インストールされているバージョン

OpenLab ストレージシステム検査レポート

OpenLab ストレージシステム検査レポートには以下の情報が含まれます。

- 検査の実行日時
- 検査を実行したユーザー
- ホスト名
- 検査の総合判定
- 検査した製品とバージョン (OpenLab ECM または Secure Storage)
- 製品の設定 (ストレージタイプ、認証プロバイダー、アクティビティログ ON/OFF など)
- 検査用のユーザーと割り当てられたロール
- テスト設定の詳細
- 検査手順のステップとステータス (合格 / 不合格)
- アクティビティログの確認

サマリーレポート

サマリーレポートには、同時に実行された一連のテスト結果のサマリーが含まれます。

OpenLab CDS 通信検査レポート

このレポートが作成できるのは、OpenLab CDS プラグインがインストールされている場合のみです。OpenLab CDS 通信検査を実行すると作成されます。

CDS 通信検査レポートには、OpenLab の各コンポーネントと機器間の通信の検証の結果が含まれます。

解析アルゴリズム評価レポート（OpenLab CDS ワークフロー検査）

OpenLab CDS ワークフロー検査を実行した場合に、このレポートが作成されます。期待される結果、測定結果、判定（合格、不合格など）を含む、検査によって検証されたすべての解析アルゴリズムの評価が含まれます。

ワークフロー検査レポート

OpenLab CDS ワークフロー検査を実行した場合に、このレポートが作成されます。CDS のワークフローおよび計算アルゴリズムの検証が含まれます（測定 > データ解析 > レポート）。

テストの中断

ホームページまたは [実行結果の詳細] ページからテストの実行プロセスを中斷できます。

ホームページから Test Services テストプロセスを中斷するには

- ・ [停止] ボタンをクリックします。

[実行結果の詳細] ページからテストを中斷するには

- ・ [停止] をクリックします。

中断は直ちに行われない場合があります。中断されると、表の現在のステップに、テストが中断中であることが示されます。

注記

[停止] ボタンによって、1つのテストだけでなく、テスト全体が中斷されます。

テストを停止するには、「Test Services の実行」権限のみ必要です。（テストを開始するには、「Test Services の実行」権限に加え、そのテストで必要なその他の権限が必要です。）

テストを中斷した場合の動作

- ・ 中断中はシステムのステータスが「中断中」に変わります。
- ・ 「保留中」および「実行中」のテストステータスが「中断中」に変わります。（完了したテストのステータスは「完了」のままです。）
- ・ 「中断」のステータスでサマリーレポートが作成されます。
- ・ テストの中斷によって終了したテストの結果は、「なし」と表示されます。
- ・ 終了したテストの結果は「合格」または「不合格」と表示され、これらのテストで作成されたレポートはダウンロードして表示することができます。

Test Services テストのスケジュール

Test Services ではテストをスケジュールすることができます。設定するとマシンでテストが自動的に実行されます。

- 複数のテストをスケジュールできます。推奨されるすべてのテスト、または、ユーザーが選択したテストセットを設定できます。スケジュールしたテストに対して必要なパラメータを指定することもできます。
- クライアント / サーバー環境の場合、1つ以上のターゲットマシンを選択してスケジュールを適用できます。選択肢は、すべてのマシン、すべての機器コントローラ、すべてのクライアント、サーバー、マシンを指定です。
- テストは、テストスケジュールを作成または変更したユーザーの資格情報を使用して実行されます（別のユーザーが指定された場合は除く）。35 ページの「テスト実行のための資格情報の設定」を参照してください。
- テストスケジュールの作成、編集、および削除を行うには、ユーザーが Test Services 管理者ロールを持っている必要があります。
- テストスケジュールの作成、編集、および削除は、OpenLab Shared Services のシステムログに記録されます。スケジュールを設定すると、Test Services にログインしているかどうかにかかわらず、スケジュールされたテストが実行されます。

テストスケジュールの作成

テストスケジュールは、[テストスケジュールの設定] ページから作成または変更します。このページは、Test Services ナビゲーションのカレンダーアイコンをクリックすると表示されます。

テストスケジュールがない場合、空白のテストスケジュールが表示されます。以下の手順でテストスケジュールを作成できます。

すでにテストスケジュールがある場合は、テストスケジュールのリストが表示されます。



	説明	トリガー	ステータス	
<input type="checkbox"/> テスト	説明	開始時間: 2020-11-06 15:00:00 +09:00, 1 日ごと	有効	
<input type="checkbox"/> システムテスト	システムテスト (毎日)	開始時間: 2020-11-16 09:00:00 +09:00, 1 週ごとの日曜日 に実行	有効	
<input type="checkbox"/> 定期チェック	定期チェック (毎週)			

図 6. テストスケジュールのリスト

テストスケジュールを作成するには、[+追加] をクリックし、以下の手順で新しいテストスケジュールを設定します。

図 7. テストスケジュールの設定

テストスケジュールを設定するには、

- 1 スケジュール名を入力します。
- 2 スケジュールの説明を入力します（オプション）。
- 3 [テスト選択] ドロップダウンから、実行するテストを選択します。
[すべてのテストを実行] は、利用可能なすべてのテストを実行します。
[推奨テストをすべて実行] は、テストを実行するマシンに対して推奨されるすべてのテストを実行します。
[実行するテストを選択] を選択すると、すべてのテストから実行するテストを選択するメニューが開きます。
- 4 [マシン選択] ドロップダウンで、以下から選択します。
すべてのマシン
すべての機器コントローラ

Test Services の使用方法

テストスケジュールの作成

すべてのクライアント

サーバー

【マシンを指定】を選択すると、スケジュールを実行するマシンを選択できます。

- 5 スケジュールするタスクの実行時間と頻度を指定するには、【スケジュール】の横にあるカレンダーアイコンをクリックします。



図 8. テストスケジュールの設定と変更

- a 【開始日時】の横にあるカレンダーアイコンをクリックし、スケジュールを開始する日と時刻を選択します。
- b 指定した開始時間から30分以内の範囲でスケジュールをランダムに開始するには、【開始時間をランダムにする】を選択します。
- c テストを繰り返す間隔を設定するには、【タスクを繰り返す】を選択します。
- d 【毎時間】、【毎日】、【毎週】、または【毎月】を選択し、繰り返しの間隔を設定します。
【毎週】の場合、実行する曜日も選択します。
【毎月】の場合、繰り返し単位を日にち、または曜日から選択します。

- e スケジュールの終了日を選択します。終了日なしでスケジュールを続行するには、[無期限] を選択します。スケジュールするタスクの終了日を指定するには、[指定日] を選択します。
 - f 選択したオプションのサマリーが表示されます。[OK] をクリックして選択を承認します。
- 6 スケジュールが完了したら、[保存] をクリックします。

テストスケジュールの有効または無効

テストスケジュールを有効または無効するには：

- 1 Test Services ナビゲーションでカレンダーアイコンをクリックして [テストスケジュール] ページを開きます。
- 2 テストスケジュールリストで、有効または無効にするテストスケジュールを選択します。
- 3 上部にある [有効] をクリックして、選択したテストスケジュールを有効にするか、[無効] をクリックして無効にします。

テストスケジュールの変更

テストスケジュールを変更するには：

- 1 カレンダーアイコンをクリックして [テストスケジュール] ページを開きます。
- 2 テストスケジュールのリストから、変更するテストスケジュールの右側にある [編集] ボタン  をクリックします。
- 3 「[テストスケジュールの作成](#)」(29 ページ) に示されている手順で、テストのスケジュールを変更します。

テストスケジュールの削除

テストスケジュールを削除するには：

- 1 カレンダーアイコンをクリックして [テストスケジュール] ページを開きます。
- 2 テストスケジュールのリストから、削除するテストスケジュールを選択し、ページの上部にある [削除] をクリックします。
- 3 テストスケジュールを完全に削除するには、確認画面で [はい] をクリックします。

設定

サービスユーザーの資格情報や通知を設定するには、[設定] タブを使用します。

テスト実行のための資格情報の設定

認証方式を使用するシステムの場合、テストを実行するサービスユーザーの資格情報を設定します。このセクションでユーザーを設定しなくとも、必要な権限のあるログインユーザーなら Test Services 検査を開始できます。

- 1 Test Services ナビゲーションで、設定アイコン  をクリックします。
- 2 [設定] ウィンドウが開きます。
- 3 [資格情報の設定] で、Test Services 検査を実行するユーザーの資格情報を選択し設定します。

アドホックテスト

ユーザーが開始するテストを実行するためのユーザー資格情報を選択してください。

ユーザーが開始するテストは、常に以下の資格情報を使用します

ユーザーが開始するどのテストにも、入力した資格情報を使用して実行するには、このオプションを選択してください。このボックスを選択しない場合、現在ログインしているユーザーの資格情報で実行されます。

テストスケジュール

スケジュールされたテストを実行する資格情報を選択してください。

常に以下の資格情報を使用してユーザーが開始するテストを実行

入力した資格情報を使用して、テストスケジュールを実行するには、このオプションを選択してください。このボックスを選択しない場合、スケジュールされたテストを実行するために、そのテストを作成 / 変更したユーザーの資格情報が使用されます。

- 4 [設定] ページの一番下までスクロールし、[保存] をクリックします。

電子メール通知の設定

Test Services にサマリーレポートの送信を設定すると、テストの実行後に電子メールでサマリーレポートを送信できます。以下のように通知を設定できます。

- ・毎日のサマリーを電子メールで送信する
- ・毎週のサマリーを電子メールで送信する
- ・電子メール通知の受信者を1人以上指定する

注記

電子メールは OpenLab Shared Services を使用して送信されます。OpenLab Control Panel を使用して電子メールサーバーが設定されていることを確認してください。OpenLab Control Panel で電子メールが設定されない場合、通知の設定はできません。エラーメッセージが表示されます。OpenLab Control Panel の電子メールの設定方法については、OpenLab Control Panel のヘルプを参照してください。

- 1 Test Services ナビゲーションで、設定アイコン  をクリックします。
- 2 [設定] ウィンドウが開きます。
- 3 [通知設定] まで下方にスクロールします。デフォルトでは、通知は無効になっています。
- 4 通知を有効にするには、[通知設定] で [有効] をクリックします。これにより通知を設定するためのフィールドがアクティブになります。

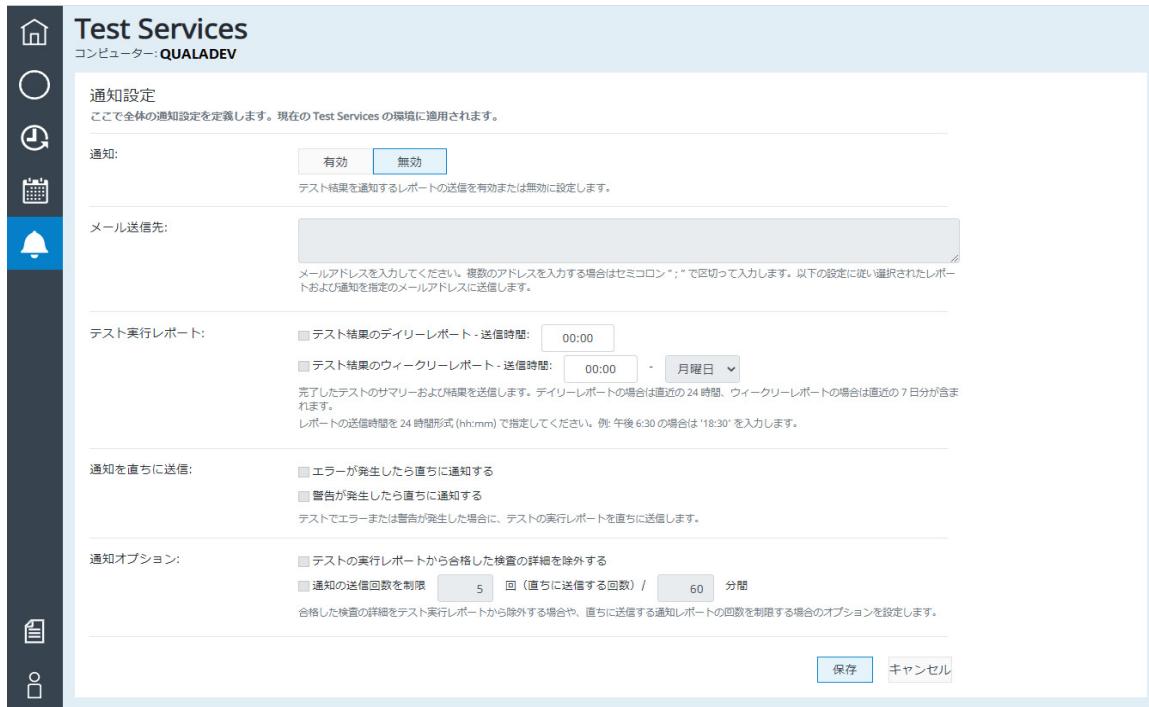


図 9. 通知設定

- 5 [メール送信先] ボックスに、1つ以上の電子メールアドレスを、セミコロンで区切って入力します。指定した電子メールアドレスに、以下のセクションで指定したオプションに従ってシステムから通知が送信されます。
- 6 [テスト実行レポート] セクションのどちらかを選択、または両方を選択します。
 - ・ [テスト実行結果のデイリーレポートを送信] - 前日（午前零時まで）に実行されたすべてのテストのデイリーレポートを、結果を含めて送信します。
 - ・ [テスト実行結果のウィークリーレポートを送信] - 前の週（月曜日から日曜日まで）に実行されたすべてのテストのウィークリーサマリーレポートを送信します。
- 7 [通知を直ちに送信] セクションで、いずれかまたは両方を選択します。
 - ・ [エラーが発生したら直ちに通知する] - エラーが発生したら電子メールを送信します。

Test Services の使用方法

電子メール通知の設定

- [警告が発生したら直ちに通知する] - 警告が発生したら電子メールを送信します。
- 8 [通知オプション] セクションで、通知のオプションを選択します。
- [テストの実行レポートから合格した検査の詳細を除外する] - 不合格になった検査の詳細のみを含めます。
 - [通知の送信回数を制限] - 指定した時間内（単位は分）における、通知を直ちに送信する回数を、指定の回数に制限します。
- 9 終了したら、[保存]をクリックします。

通知を無効にする

すべての電子メール通知を無効にするには、

- 1 Test Services ナビゲーションで、設定アイコン  をクリックします。[設定] ウィンドウが開きます。
- 2 通知を無効にするには、[通知設定] で [無効] をクリックします。これにより通知を設定するフィールドが非アクティブになります。
- 3 [保存] をクリックします。

通知を有効にする

いったん無効化した通知を有効にするには、

- 1 Test Services ナビゲーションで、設定アイコン  をクリックします。[設定] ウィンドウが開きます。
- 2 通知を有効にするには、[通知設定] で [有効] をクリックします。これにより通知を設定するためのフィールドと、[保存] ボタンがアクティブになります。新しい通知を設定するか、既存の通知を編集することができます。

通知レポート

通知レポートは、指定されたアドレスに電子メールで送信されます。通知レポートには、通知期間中に実行されたテストのサマリーと、そのレポートへのリンクが含まれます。

注記

必要に応じて、指定されたマシンにログインして、レポートを確認します。

通知によって送信されたテスト実行結果のデイリーレポートの例を以下に示します。

検査ステータスサマリー

不合格	0
利用不可	3
中断	1
合格 (注記あり)	0
合格	12

不合格 (0)

コンピューター	実行日時	要した時間	検査
利用不可 (3)			
SR-CDS2-AIC.scs.agilent.com	2020-11-05 15:55:38 +09:00	00:06:52	OpenLab CDS ワークフロー検査
SR-OLSS-CS.agilent.com	2020-11-05 15:50:35 +09:00	00:01:48	OpenLab ストレージシステム検査
SR-OLSS-CS.agilent.com	2020-11-05 16:04:30 +09:00	00:00:09	OpenLab セキュリティ検査

図 10. 通知によって送信された Test Services デイリーレポート

本書の内容

本書では、Agilent Test Services の使用方法について説明しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies, Inc. 2022-2024

文書番号 D0034255ja

2024年1月

Published in USA

